あ・そうかい通信

あ・そうかい 会報
第11号
2017年11月25日
発行：あ・そうかい
編集： 運営委員会

熱演に大盛り上がり 第一回文化祭

新たな試みが実を結んだ。10月31日、麻生いこいの家で開かれた第1回文化祭には、出演者、観客合わせて35人が参加。熱演、名演（迷演も?）に笑いや拍手が絶えない午後のひとときとなった。

中島泰志総合プロデューサーのもと、歌あり古典芸能あり朗読ありと多彩な演目が並んだ。中でも喝采を浴びたのは中島さんが友人と組む「調査捕鯨倶楽部バンド」の演奏と、南亭八ッ太師匠こと飯田保幸さんの落語「禁酒番屋」。どちらもプロ級の腕で観客を沸かせた。

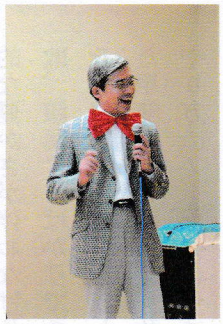
一方、日本舞踊分科会のメンバーは稽古の成果を男女に分かれて初披露。カラオケ分科会の面々は美声と替え歌、さらに奇想天外な歌唱で会場を盛り上げた。音響のいっさいを取り仕切った中込清皓さんの手腕も光っていた。

あ・そうかいの「なんでもやってみよう精神」をあらためて感じさせた新企画は無事に成功。第2回はさらに面白くなりそうだ。

文：佐藤次郎　写真：中山正夫

南亭八ッ太（飯田保幸さん）の熱演

フィナーレの大合唱



抱腹絶倒・カラオケ
飯塚敏洋さん

唄 ：マッキーとその仲間
演奏：調査捕鯨倶楽部バンド

魚眼・複眼

「感動は人の命の栄養源だ。感動体験がなくなると人の心は衰え、からだも衰えてくる。逆にいつも感動体験をしている人の心には、青春の情熱が満ち溢れ、歳はとっても体は衰えない」と言われています。

初めておこなわれた「あ・そうかい文化祭」では、いままで知らなかったメンバーの一面を知り、新たなものに挑戦している姿を見ることができ、感動された方も多いのではと思っています。

自分の固定観念から外に出る。これこそ、老いの過程において、ぜひとも心がけておきたいことではないでしょうか。

次回の「文化祭」では、さらに技を深めた方、新しいことに挑戦する方々から、感動を頂戴できれば嬉しいことですね。